

新山協ニュース

△ 発行者 平田大六 △ 発行所 新潟県山岳協会
〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男方 TEL 0258-32-0428

平成6年 文部省 全国山岳遭難対策協議会報告

遭難対策委員長 小林 由夫

平成6年7月13日14日の2日間、岩手県盛岡市のつなき温泉「愛真館」で開かれ、28都道府県91名が参加、岩手県山岳協会の主管で行われました。新潟県からは、県保健体育課主任、瀬野正英氏、県警の池田義雄係長、高体連登山委員長の藤田善思氏と私の4名が出席しました。13日9時受付、10時開会のために12日中に現地入りし宿泊となりました。出発の打合わせが不備で各自車で行くことになりました。会場は秋田に向う国道46号線の雫石町との中間で近くに小岩井牧場のある所です。

会議

第1日目10時開会で主催者来賓の挨拶の後、講演、「冬季サガルマータ南西壁登攀」と題して多くのヒマラヤ登山経験を持つ文部省登山研修所専門調査委員、尾形好雄氏による、ヒマラヤの登山史とサガルマータの登山行動をスライドによる講演、サガルマ

タとはエベレストのネパール名、この登山記録は岳人8月号に詳しく載っている。講演後、議題として4題ありました。その概略です。

1、「最近の山岳遭難事故とその防止対策について」
警察庁地域政策係長 尾野 透

山岳遭難発生状況に関して月別、県別、山岳別、原因、年齢別、登山届の提出状況等の説明があり、小さな事故には軽装、無謀、無届、行動変更等に関するものが多い。この統計的なものから考えられる防止対策の効果的推進について考えると、まず登山届を確実に地元警察又は駐在所登山届設置場所等に提出することであり、その啓蒙も推進しなければならない。

2、「山にかかわる気象」

盛岡地方気象台 山川 弘

山の山頂、すなわち高層大気に関する話で、台風は高度2〜3km附近が最大風速となり遠くでも影響する。これより上層は弱く、下層では地上の地形等の抵抗で弱めで遅く現れる等、遭難事故の割合を見ると気象遭難に関するものが比較的に多い。もっと登山者は気象に関する勉強をしなければならぬと思う。

3、「山岳遭難対策と通信、雪崩ビーコンについて」
日山協遭難対策委員長 北田 紘一

山岳遭難対策における通信手段は切り離せない重大な役割を持っている。その重要性は現在のヘリの出動に直結している。その通信手段の種類としては、有線、無線(特にアマチュア無線)があるが、現在は無線が中心、今後は携帯電話(中継地の場所により不感帯がある)、衛星通信(不感帯がない)が考えられる。それに合わせて、SOS発信の通信系統と受信体制の経路の問題も起こってくる。雪崩ビーコン、雪崩遭難の捜索機材で、発信器は個人用となる。受信器は共同器具。雪

崩ビーコンを携行する場合はスコップも必携となる。小規模雪崩には効果的で有効範囲は、深さ2m周囲50m位とされている。雪崩埋没者の生存限界は15分以内90%、40分以内25%(窒息限界)、2時間10%(凍死寸前)となると個人用発信器を持参する時は、必ず受信器も持参しなければ雪崩ビーコンの効果はない。合わせて救命処置も関連してくるのでその訓練も必要となる。

4、「山岳救助隊はいかにあるべきか」
岩手県山岳救助隊 渡辺 正蔵

各救助隊の統括に当り本部の責任者(山を良く知っている者)をはっきりさせる。救助要請受理に際しては事故の内容、事故者の経験度合等、キチッと聞き取り不明朗な情報に惑わされないよう確実な情報を得る。出動に対しては早急な対応の出来る連絡経路を確立する。管轄地域の問題も考慮しなければならない。救助隊側としては装備の確保や技術レベルのそろった体制の確立や経費の問題などであ

る。しかし現状をながめると現有組織の弱体化、指導力のレベル低下、装備の進歩に対する知識不足、オールマイティな活動力の不足等が目立ち、救助隊を育てるためのマイナスポイントとなっている。その上中高年登山者が多くなり、山岳団体未加入者に対する指導という問題もある。又観光開発等により、交通の便が良くなったための容易な登山や小屋管理人の変化(アルパイト人が多くなっている)など、事故を起こさない為の登山者への指導をどうするか。救助隊の技術向上と訓練をどうするか。出動手当の問題など課題が多いのが現状である。

翌日第2日目は分科会で各テーマに沿った事例発表を基に討議、終了後全体会議で各分科会の討議報告が行われた。その概略を記しておく。

第1分科会(警察と行政関係)

「山岳救助隊の現状と救助活動状況」

溪流、山菜、キノコ、登山者と広範でしかも高齢者が多くなっている。各組織や関係機関との連携が必要。事故防止に関するパンフレットの配布と登山届の徹底。指導者、

保険の充実。山岳パトロールと地域の実情に合った施策。ヘリの有効利用と救助隊の技術、装備の向上等、行政面からも力を入れなければならない。

第2分科会(大学一般山岳会関係)

「山岳団体の遭対救助訓練と遭対組織」

ここ10年来新入会員の少ない団体が多い。中高年の問題もあるが、既存山岳会の会員そのものが中高年となり後継者のないものが実情。よって自己救助能力も低下している。したがって横のつながりや、ヘリ、岩場でのウインチ等、効率的救助、相互組織、公的組織が必要。救助はシステムであり、リーダーシップが重要、技術訓練とともに救命救急処置の訓練も重要である。日山協ではレスキュー資格制度も検討中。又日山協が関与している保険3種類(山岳保険、ハイキング保険、積立保険)あるが改善について検討中である。大学山岳部の一般山岳会と同様の現状である。登山活動をしているかぎり遭難は有るという前提で対処しなければならない。

第3分科会(高体連関係)

「高校生の登山講習会と登山活動の現状と問題点」

安全登山の為に、顧問、部員の力量を高める。特に顧問の技術、指導力の向上の為に研修が必要。しかし山がクライでも顧問になる場合もあり、法的な責任もからんでくる。

部活ということから健康診断も必要。又費用負担の軽減から自家用車での移動など問題点が多い。

以上各分科会の討議報告があり最後に「夏山登山に向けての事故防止の呼びかけ」案を採択し終了しました。

平成6年度日本山岳会 自然保護全日本集會に参加して

JAC 越後支部自然保護委員
石田 国夫

昨年の全国集會の時に、富士山五合目立体駐車場問題と鳥海山大開発問題の内容を県山協ニュース86号で報告しました。それ等のその後の経過と結果が去る、9月17日、18日山梨県早川町で、日本山岳会自然保護全国集會の席で各々関係者からお話が有りましたので報告致します。

①山梨県が環境庁に、富士山五合目に大規模な立体駐車場の建設を申し入れた。これに対し富士北麓及び山梨県内の自然保護団体の猛反対に会い、最終的には昨年9月に県知事が白紙撤回することに成り、これ以上富士山を傷めること

②山形県鳥海山大規模スキー場開発問題で、昨年10月「イヌワシ」が生息していると言うことから一時開発を規制して、生息、営巣の範囲等調査して、本当にイヌワシが生息しているのか心配されたが、調査の結果数羽のイヌワシが確認された。

又、時には「オジロワシ」も出て空中戦を見ることが出来るそうだが、それで開発問題は全面的に凍結と成った。次に各支部の活動状況報告

である。一番に関心のあったのは、信濃支部の「国営アルプスあずみの公園」の問題である。これは全国で14番目の国営公園として北アルプスのふもと、大町市、穂高町、松川村、堀金村、の4市町村にまたがる約350ヘクタールに及ぶ広大な都市公園を作ろうとするものです。都会のリゾート需要により国(建設省)の直轄事業として整備する大規模なリゾート施設で、平成2年に事業化された時の計画によれば、山林や田畑の中に自然体験ゾーンや庭園ゾーン、林間リクリエーションゾーン、芸術広場ゾーン、など7つのゾーンと、それに見合った施設が作られる予定であり、年間200万人の観光客を想定し総工費500億円という計画です。

これに対し地元では、「国営アルプスあずみの公園友の会」を作り、地元民を始め全国の人々にも呼びかけて、北アルプスや安曇野に代表されるすばらしい自然環境を保全し後世に残したいとしています。

日本山岳会本部もこれを取り上げ、関心を持って見守って行きたいとのことでした。

これは全面的に凍結と成った。次に各支部の活動状況報告

中高年登山教室「妙高山」 班リーダー報告

谷 中 隆 明

教室への参加は、今回が初めてであった。リーダーを依頼されたもののおずかる参加者のことが全くわからない。まず、全てのメンバーに電話をかけ、山行歴、装備、体調等を詳しく聞き出した。また、全員が地図と磁石を使ったことなど全くないとのことだったので、それらの購入もお願

いた。ホテルでの夕食後、ミーティングを行い、特に「連れていってもらおう山行」から「自立した山行」へ切り替えていくことが、安全登山への第一歩であることを強調しておいた。山中での講習で最も力を入れたことは、地図と磁石を使って常に現在地を把握してもらいうことであった。安全に登山をするには、やはりこのことが最も基本だと思う。いろいろなケースを想定し、実例を交えながら説明したので、少しは重要性を理解してもらえたと思う。その他、個々のメンバーの様子を見ながら、疲

ペースの好リードで最小限に抑えることができた。その分、休憩を短くすることで所要時間は健康者と大差なくなり、受講者には大きな自信になったと思う。今回の参加で登山の基本を改めて考えさせられ、また、百人近い高齢の参加者を安全に動かしていく委員の方々の準備・運営の仕方を見せていただき、私自身にとっても大変良い教室であった。(映彩山岳会)

翌、87年は北海道大会です。1位しか出場できない年にあたっていましたが、1位になって団体男子・A隊への出場権を得、全国大会では優秀校として金メダルを獲得して、全国大会の頂上に登り着いてくれました。88年は県大会2位で大阪大会C隊へ。3年連続出場や前年のプレッシャーも大きく、選手の一人が急性腸炎で倒れてリタイア。89年は県大会4位となり、全国大会の連続出場はならなかったものの、この年から始まった北信越大会で優秀校。90年は県大会2位で宮城大会C隊へ。トータル25チームがリタイアという炎暑の大会で7位。

92年、県大会4位。全国大会の出場権をのがして、加賀白山での北信越大会に出場して優秀校。93年、県大会1位で栃木大会A隊へ。選手の奮闘にもかかわらず、16位とこれまでで一番順位を下げた。そして今年、94年。県大会1位で富山大会A隊へ出場。監督の判断ミスが減点をまねいて9位。この減点分を加点しただけでも入賞得点だっただけに、責任を痛感しました。同大会のC隊に出場した三条東が3位に入賞し、隣県大会としての面目を保ってくれ、うれしい限りでした。

2、山岳部と大会について

わがクラブ ⑩ クラブ紹介

三葉工業高校山岳部 顧問 吉田光二

1、部の歴史と伝統
我が部は三葉山岳部からの伝統を受け継いでいます。その伝統は、各種大会での活躍もさることながら、市内の山岳会の中核をOBが担っていることをみても、いかに輝かしいものであったかを物語っています。

初年度の83年は16位。84年4位。85年3位と順位は上げたものの、全国大会への出場は4年目の86年につれこんで実現しました。男子は隔年で2位まで出場できるのですが、この年、2位に入って山口大会に種目男子縦走でC隊に出場することになりました。

山口大会は2年生だけのチームで参加し、5位となって、三工山岳部の力が全国レベルに通用することが実証できま

91年、県大会で久々に1位になって静岡大会のA隊に出場。南アルプスの3000m級の山域での大会ということ、大変に慎重に運営され、史上例をみない落伍者のない大会となり、その分、得点については僅差で順位が開くことになり、100点満点の中で優秀校に3点差まで迫りながら、46校中14位となりました。

しかし、我が部では部活動の目的は次のようにしています。「四季を通して国内の一般ルートをごこなせる力をつけること。また、若干のアクシデ

ントは自分たちで処理できる力を持つこと。

「山」を学ぶところ。学ぶべき「山」とは、とてつもなくスケールが大きく、技術・知識・自然・生活・人生観・etcと内容も多く、それこそ際限がありません。

そして登山大会は、それぞれの学校の部で学んでいる「山」を交流しあい、学びあうためのステップであると思っています。また、とかく安易な方向へだらだらと行ってしまいがちな部活に対しての励みの一面もあると思います。

したがって、普段は各大会への参加の他に合宿山行で経

験を重ね、平日は校内でトレーニング、学習、炊事訓練などを毎日行っています。

こうした日常活動の上に大会があり、大会で学んだことは部に取り入れ、部活や合宿の内容を改善しています。大会は部活の実力テストであり、活動内容の点検の機会と受けとめています。

とかくありがちな、部活(登山活動)と大会が無縁なものにならないように心がけています。ながら、時流にあわせて若い岳人の養成に努めたいと考えています。

山岳部の活動とは山に登ることなのでから。

1994年第2回中国青海省国際高校生登山交流会報告 ②

隊長 藤井 信

8月2日(火)
今回の訪中隊のなかには、海外遠征で高所登山の経験のある先生方も数人おられますが、

目的が日中高校生登山交流会で、高校生が主体である。全員が、野牛山(4898、3m)の山頂に立つためには、

もったいないような気もするが、貴重な一日を高所順応に当てる。

南响河の右岸にある無名峰を選び、快晴のなかをBCを、10時出発、明日からの登山行動に備えて、ゆっくりとした登高で名も知らない高山植物

の花を楽しみながら進む。日中高校生も、何年も前からの友人のように解合い、会話も弾みよい雰囲気を感じられる。推定、約3650m緩やかな稜線に出る。眼下にBCが俯瞰できる。あまり無理をせず、4166mのピーク寧ろ欠梁に登頂はせずに、BCへ下山する。

午後のBCでは、夕食の水ギョウザ作りがはじまる。日本の高校生も参加しての料理づくりである。慣れない日本の高校生のものは、形の出来不出来がある。だが、楽しそうである。大勢のお手伝いで

のギョウザ作りは、道具が足りなくなり、そこは山小屋である。ピーチパソールの柄まで道具となる。中国の人たちは男女問わず料理は上手である。中国では日常の食生活は、男性も料理をする。

中国西部の海拔4000〜5000mの高地に分布する牛の一種)荷物の運搬はヤクにまかせて、一足先に、10時全員、ACに向けて行動を開始する。

高山植物が、山全体に咲き乱れる緩やかな草原帯の登高からはじまる。小刻みに休息を繰り返しながら高度を上げる。高度が上がるにつれて、東方の岩山のアルプスのような景観と足元の花に助けられ登高が続く。

途中、標高約3800mにチベット遊牧民の家族の包(パオ)がある。夏季の遊牧期間は、標高4000m前後の草で、羊かヤクを飼育する。冬に向かい寒さとともに、標高の低いところに下りてくる。(包については、帰途の項で説明する)幾つかの包が建っているなか、最も警護の最高の位置に、ライオンの雄のようなチベット犬が包を守っている。とても恐くて近寄れない。草原に住むチベット遊牧民は、日中はヤクや羊を追いながら草原の山を遊牧する。包には、比較的小さな子供が居残る。また、財産の警護のために、途轍もない大きなチ

ベット犬が守っているのである。

ヤクや羊の遊牧の群れにも主人を助けて、チベット犬が活躍している。ヤクや羊が一カ所に群れて、草を食べて居るときは、腹ばいになりじっと動かないで昼寝でもしているように見える。数頭の羊が、群れから外れて浮気でもしたら、突然飛び出して群れのなかに連れもどしてしまう。群れのテリトリーを確りと守っているため、外部の者は近寄れない。

包を後に緩登が続き、広大な尾根の高みから、沢の左岸に渡り、更に右岸に移り4452mの山の尾根をトラバースぎみにルートをとる。右岸の4452mの下の沢AC予定地に(標高約4200m)17時10分到着。ACは、うまい具合に沢底が広くなった川原状の地形で、好適地である。大雨であれば当然、危険でACは一溜まりもなく流されてしまうだろうが、そこは、雨量の少ないところである。

私たちより一足遅れて荷物運ぶ、ヤクの一団が到着する。ACの設定にとりかかると、設営も完了して、夕暮にはまだ

間がある。ヒマラヤの高所登山の経験を生かして、三条商業高校の半谷高紀先生が、明日の登頂に備えて、4452mの山へ率先して隊員とともに、少しでも高いところへ身体を慣らすために、高所順応に行動開始、ゆっくり、ゆっくりとした歩行で登って行く。

8月4日(木)、野牛山へアタックの日である。



野牛山(4898・3m)

8月4日

7時起床、朝食を済ませる。高校生は、AC(4200m)の標高でのキャンプ生活は初体験であろうが、皆元気で体調もよく、さわやかな顔している。

ACを9時40分出発する。ACから、沢を渉り左岸に移る。一部にはガレ場もみられるが、ぜんたいに水溜まりが無数に点在する草地の急な登りである。高所順応の成果かゆっくりとしたペースを保ちながら快適に登る。急坂を登りきり休息をとる。

野牛山から真北に張りだした尾根の裾で、台地状をなし、水溜まりが点在する草原帯のルートをとる。

回りの山も岩山に山容を変え。花一面とは云えないが、可憐な花を楽しみながら、僅かす

つ高度を上げるにつれて、酸素の希薄さを感じる。谷を挟んで右岸の4786mの山に、BCから望遠した時に見れた川の字の残雪が、目の前に大きく見られる。草地帯も終わり、ガレ場に変わる。ガレ場を暫く登って、大きな岩が乱立したところの台地にでる。

休憩をとり、少しものを食べはじめたとき、突然、空が暗くなり雹まじりの小雨が降り出す。雨具の用意をする者もいる。空は真暗だ。困ったな。天気が崩れて、山頂を目前にして、ACに引返し、再度アタックではと困惑する。

困惑も束間、空には、また、靑空がもどる。BCに入ってから、午後になると、2日とも決まった時刻に、嫌な雲と風が通り過ぎ去っていた。それなりに、この山域の天候が安定していることを感じとってはいしたが、嫌な気持ちになった。一時の通り雨で助かった。

休息した台地から数年前に、長野県高校日中登山交流隊は、野牛山(4898・3m)から北に派出する尾根の稜線にとり付いて、山頂へアタックをしたようであるが、新潟県高校隊は、正面の急な壁のガ

レ場にルートをとった。標高4540m点から野牛山の山頂まで高度にして約358mの苦しい最後の登高である。希薄な酸素のなか、高校生は未体験高度を、足元の不安定なガレ場を、ゆっくりとした足取りで、休憩をとりながら、野牛山の山頂をめざして登る。

8月4日(木)15時50分、野牛山(4898・3m)の山頂に、新潟県高校生と中国運動体育学校の生徒、交流登山に関係したスタッフ全員が登頂する。全員が登頂したことを、お互いに感謝と喜びを分かち合い、記念写真撮る。

野牛山は、チベット族の野牛山領域に遊牧する人たちの信仰の山であった。山頂には、頂いっばいに石を積み上げて、タルチョヤルンタが祭られてあった。(タルチョ||地、水、火、風、空、を意味する五色の祈り旗。経文やルンタ(風の馬||仏宝をのせた馬)が描かれていた。)

周囲の展望は、そこそこであったが、残念ながら黄河や青海湖は見ることができなかった。山頂を後にする。山頂直下の急なガレ場を、足元に注

意しながら、慎重に下る。急坂の難所も終わり、一安心する。ガレ場の間に、雪蓮花が多く自生する。中国では、珍重な漢方薬だと云う。中国隊員は雪蓮花を採ることに懸命である。帰途は、アプローチが長くこんなに歩いたかな、と思うほど長く、ようやく、18時40分、ACに到着する。

ACでは、キャンプキーパーの人たちの心尽くしの、西瓜やヨーグルト、ワントンなどが、振舞われた。ACに全員が終結したところで、野牛山を全員登頂した成功の感謝の意を、サポーターのcock、自動車運転手、荷物を運搬したチベット族のヤクの持主、関係各位に謝辞を申し上げる。

今日、高校生は未体験高度と強行軍のため、全員、早く就寝する。(つづく)



「青海信越山荘」 のご案内

一昨年、山登りの間で中国の青海省の景勝地青海湖畔に山小屋を建てようという話が持ち上がり、青海省登山協会のご協力を得て本年5月着上、10月完成の運びとなりました。話の発端は同協会と共に実施してきました高校生訪中登山交流事業の中から起こったものですが、同事業の基地としてばかりでなく日中双方が幅広く利用できるようなという目的で準備して参りました。ご承知のように青海省は中国でも西の奥地で、チベットの北隣、シルクロードの入口であります。省都西寧(シーニン)市は標高2000mにある大都会です。周辺の山岳基地としてはもちろんのこと、黄河源流域、青海湖、青藏公路、シルクロードの旅行・バイクツアー・冒険等の基地として絶好の位置を占めています。山荘はこの立地を生かして多様な目的に対応できる設計のもとに、いま瀟洒な姿を青海湖に映しています。

「青海信越山荘」会員・会

員関連の団体の滞在に際しましては優遇されることになっております。建設費につきましては94年5月着工時に400万円をすでに支払い、10月末と95年3月に残額を払い込むことになっておりますが、現在目標額の半額に達したところであります。引き続き会員募集をしておりますので、この夢のある企画にぜひご参加いただけますよう心からお待ち申し上げる次第であります。

「青海信越山荘」の完成記念ツアーは、1995年の5月連休を中心に13日間の日程で企画し、左記のように募集致します。今後の永い山荘利用の研究のためにも有益な旅になると存じます。皆様のご参加とPR方を心からお願ひします。

発起人 勝野 順
伊澤利 幸
藤井 信

「青海信越山荘」 完成記念ツアー募集

期間 1995年4月27日
(木) ～ 5月9日(火) 13
日間

目的 「青海信越山荘」周辺

の観光と登山(希望制)、
西安(兵馬俑等)観光
費用 一人約20万円(但し、
実費制・会員価格にて先方
と折衝中)

人員 20～30人
日程
4月27日 15時30分 名古屋
屋国際空港発 MU292
便、20時5分 西安空港
着、ホテル(唐城賓館)へ
4月28日 バスにて西寧市
へ(青海ホテル泊)
4月29日 バスにて「青海
信越山荘」へ

※ 記念祝賀宴を西寧で行
う場合は西寧泊
4月30日～5月4日

「青海信越山荘」滞在、こ
の間、青海南山登山、鳥島
見学などを参加者の希望に
より企画します。

5月5日 西寧市へ 帰途
塔爾寺等見学、答礼宴(市
内泊)
5月6日 列車にて西安へ
(列車泊)
5月7日 早朝西安着、ホ
テルへ 後市内見学
5月8日 西安観光
5月9日 8時5分、西安
空港発 MU293便、14

時15分、名古屋国際空港着

※ 中国国内の日程等は先
方との打ち合わせにより多
少変更があります。
また航空便のダイヤも変更
があります。

※ 名古屋空港までは高速
バス等を利用します(費用
別途)。

申込 1994年11月末まで
に御一報ください。旅行費
用の払い込み、ビザ手続き
等につきましては、申込者
に詳細を連絡します。

北信越5県
連絡会議案内

期日 平成6年11月19日(土)
～20日(日)
会場 西蒲原郡弥彦村弥彦
グリーンヒル山彦
☎0256(94)2279

日程 19日13時30分集合
会議 14時～17時
懇親会 18時30分
20日8時30分解散
参加費 1泊2食1万円
日帰り 5000円
申込 森 庄 一
☎0257(23)5820

指導員研修会案内

日時 11月20日 10時～15時
会場 新潟市東万代町9-1
万代市民会館
午前 登山中の事故・遭難の
時リーダーの刑事・民事責
任は

午後 海外登山報告 日山協
研修会報告他
会費 研修会費 2000円
懇親会費 3000円
申込 三富一弥
☎0258(383)2468

登山用品専門店

信頼できるパートナー

大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736